

入試日程

2025年度 博士課程前期課程

一般 社会人 スターリング大学 ダブルディグリーコース* 英語教員対象 1年前修士学位コース	試験日	出願期間
第1次	2024年 9月14日(土)	2024年 7月29日(月)～ 8月 5日(月)
第2次	2024年 11月30日(土)	2024年 10月29日(火)～11月 6日(水)
第3次	2025年 2月15日(土)	2025年 1月16日(木)～ 1月23日(木)

*スターリング大学ダブルディグリーコース第2次および第3次入試は、定員充足状況により実施しないことがあります。

学内推薦	試験日	出願期間
学内推薦第1次	2024年 9月14日(土)	2024年 7月29日(月)～ 8月 5日(月)
学内推薦第2次	2024年 11月30日(土)	2024年 10月29日(火)～11月 6日(水)

2024年度・2025年度 博士課程後期課程

2024年度 秋入学	試験日	出願期間
秋学期入学	2024年 7月 6日(土)	2024年 6月 3日(月)～ 6月10日(月)

2025年度 春入学	試験日	出願期間
春学期入学	2025年 2月14日(金)	2025年 1月16日(木)～ 1月23日(木)

交通アクセス



西宮上ヶ原キャンパス
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155
阪急電車「今津線」甲東園駅または「仁川」駅から西へ徒歩約12分
または「甲東園」駅から阪急バス約5分「関西学院前」下車



大阪梅田キャンパス
〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19(アプローチ10、14階)
阪急電車「大阪梅田」駅から北へ徒歩約5分



Better Communication
for a Better World

Graduate School of Language, Communication, and Culture

言語コミュニケーション文化研究科
2025

言語科学領域

言語文化学領域

言語教育学領域

日本語教育学領域



Better Communication for a Better World

コミュニケーションを柱に、4領域で言語と文化を探究

言語と文化の両面から人と社会にアプローチする
新たな学問領域「言語コミュニケーション文化学」の構築を目指し、
本研究科では、言葉や文化の壁を越えて互いの力を分かち合い
高い志をもって未来を創造する
グローバル化の時代の担い手となる人材を育成します。

言語科学 領域

人が言語をどのように
駆使するかを探究

言語文化学 領域

地域文化、多言語多文化学際、
映像演劇文化の諸問題を探究

言語教育学 領域

学際的・実証的に
言語教育を探究

日本語教育学 領域

外国人を対象とした
日本語教育を探究

言語運用能力をブラッシュアップ

本研究科では言語運用能力をブラッシュアップするための授業を開講しています。
国際的な学会でのプレゼンテーションやディベート、
そして研究論文執筆に必要な「読む・書く・聴く・話す」能力を、
「言語コミュニケーション能力養成科目」(英語・フランス語・ドイツ語・中国語)で養成します。



[研究科委員長からのメッセージ]

好奇心を胸に、真摯な姿勢で

黒い顔、見開いた目、きらびやかな衣装。私が手にしている恐ろしい顔の人形は、台湾の伝統劇・布袋戲に登場する、北宋時代に実在した名判事の包公(包拯)です。中国語圏の物語世界では、弱きを助け強きをくじく正義の人であるだけでなく、「星はこの世を裁き夜はあの世を裁く」ほど超常的な力を備えたスーパーマンとして描かれます。

そんな包公が大切にするのは、事件に関わる人々と丁寧にコミュニケーションをとりながら調査を進めることです。街中を歩き回って証拠を探し、時には証言を得るため「あの世」へ靈魂を訪ねて行き、先入観にとらわれず色々な立場の人に耳を傾け、小さな気づきをきっかけに大きな事実を発見し、事件の真相へと迫っていくのです。

包公の態度は、大学院で研究する姿勢にも通じると思いませんか。当たり前のように、こうした地道な作業を続けるのは意外に

難しいものです。私たちはまずテーマを設定し、文献を調査したり人々にインタビューしたりするうちに、ある事実を見出し、説得力ある結論にたどり着きます。もちろん、その過程においては何度も試行錯誤を重ねることでしょう。そんなとき、包公は正義を貫きたいという情熱をモチベーションに行動しましたが、本研究科に集う皆さんには、代わりにマニアックなぐらいの好奇心を推進力として研究に携わって欲しいと思います。

言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学、どの領域を選んでも、強い好奇心を抱き、他者と深くコミュニケーションをとり、人や物事の多彩な背景を真摯に調べていけば、きっと皆さんの求める「真実」を獲得できることでしょう。

言語コミュニケーション文化研究科委員長
藤野 真子



世界中の留学生が集う 英国スターリング大学で学び、 両大学の修士号を取得する。

最短2年間で、本研究科修士号(言語教育学または言語科学)および
 スターリング大学大学院 MSc (TESOL) の2つの修士号を取得できます。



University of Stirling
 MSc in TESOL
 Programmes Director
Adnan Yilmaz

<Message>

As the Programme Director for the Double Degree between the universities of Kwasei Gakuin and Stirling, I am delighted to report that our first Double Degree student graduated in March 2018. After two years of study, this student graduated with two Master level degrees rather than one. I strongly believe that our partnership will prosper further with our current and future double degree students.

In an increasingly interconnected world, partnerships through Double Degrees offer strong prestige and therefore stand as a sign of the future. In the fields of education in general and TESOL in particular, the enhanced exposure to and awareness of different learning and teaching styles via such partnerships can enrich and develop our knowledge and understanding of the field, which, in turn, informs our own practice. By providing the opportunity to study in Japan and Scotland, our Double Degree provides this particular opportunity precisely.

Other benefits of the Double Degree programme include: providing an excellent balance between theory and practice, increasing (inter)cultural awareness through collaboration with students from different parts of the world, and most importantly, increasing future employability and promotion prospects. Graduates of our Double Degree are truly global citizens.

2つの修士号を取得できる ダブルディグリーコースです。

関西学院大学大学院からスターリング大学大学院に2セメスター留学し、所定の単位を修得して双方の修士論文審査に合格することによって、両大学の修士号を取得できる制度です。

TESOLを専攻し英語教育を学ぶことができます。

世界各国の留学生と机を並べながら、最新の研究動向に精通したアカデミックスタッフのもと、英語教育の実践的テクニックと、その裏付けとなる理論を学ぶことができます。

TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages)
 英語の非母語話者への英語教授法。スターリング大学では、モジュール(科目)選択の組み合わせによって、TESOL、TESOL and Applied Linguistics、TESOL and Computer-assisted Language Learningの3つから、取得する修士号(MSc)を選ぶことができます。



修了生からのメッセージ

受験時点では、コロナ禍で渡英できるか確約がありませんでしたが、なんとか落ち着いた念願のダブルディグリー留学が叶いました。世界各国から教員経験のある学生とない学生が集まるので、教育現場の現実や苦勞と教育への理想がぶつかり合い、授業では活発な議論がなされ多角的な視点を身につけることができます。英語教育は国によって異なるので、クラスメイトの話聞くのは楽しい時間です。新学期が始まるや否や課題に追われる日々ですが、授業のあとに友人と一緒にランチを食べながら、課題のつらさを分かち合い、励まし合い、助け合うという関係が自然と生まれます。未知の国出身のクラスメイトとの出会いや、多文化に触れる機会は、今後の英語指導に生かせる貴重な経験となります。スターリング大学で得た知識やメソッドがこれからの英語教育への向き合い方を高め、そして何よりも友人たちが苦難を共にした同志として日本帰国後も共にいてくれます。ちょっとした休暇があれば、友達と少し遠くに足を伸ばしたり、旅行したりしました。せっかく英国まで行くのですから、勉強以外にもいろいろ体験してください。笑ったり泣いたり1年間は本当にあっという間です！一日一日を思いっきり楽しみ、課題に奮闘し、充実した時間を過ごしてください。



池名 友
 2024年3月前期課程修了

スターリング大学

創立: 1967年
 学校種別: 国立
 所在地: 英国スコットランド



世界の大学ランキングにおいて総合五つ星を獲得する英国スコットランドの総合大学。湖や18世紀の古城を取り囲む330エーカーの広大なキャンパスに、講義棟、図書館、学生寮、スポーツ施設、アート・センター、カフェ、レストランが建ち並び、11,000人以上の学生が学ぶ。115ヶ国からの留学生が全体の23%を占め、学習・生活の両面におけるサポートも充実している。
 *QS World University Rankings 2023/24

2年間の基本的な流れ

1年次		2年次	
セメスター1 (4月~7月)	セメスター2 (9月~12月)	セメスター3 (1月~8月)	セメスター4 (9月~3月)
関西学院大学 言語コミュニケーション能力 養成科目を中心に履修	スターリング大学 TESOLコースで 専門科目履修	スターリング大学 TESOLコースで 専門科目履修 学位論文提出	関西学院大学 専門科目、演習科目の履修 学位論文提出

学費・奨学金 ※2024年度実績

学費				奨学金
1年春学期	1年秋学期	2年春学期	2年秋学期	
約35万円 (+入学金20万円)	関西学院大学: 5万円 (通常: 約70万円) スターリング大学: £9,742 (通常: £20,600)		約35万円	月額7万円支給 (留学期間中)

主な受験資格

希望者は「スターリング大学ダブルディグリーコース入試」を受験します。

主な受験資格
<ul style="list-style-type: none"> IELTS (Academic Module): 6.0以上 (Speaking & Listening 5.5, Reading & Writing 6.0) TOEFL iBT: 69点以上 (Speaking 17, Listening 11, Writing 23, Reading 18) Pearson Test of English (Academic): 54点以上 (Speaking 51, Listening 56, Reading & Writing 60) Cambridge Certificate of Proficiency in English (CPE): Grade C Cambridge Certificate of Advanced English (CAE): Grade C

入学試験形態
<input type="checkbox"/> 述試験

充実のカリキュラムと指導体制

前期課程では、4つのプログラムに分かれて学びますが、他のプログラムの科目も自由に履修できる柔軟なカリキュラムを設定しています。また、指導教員やサブ・アドバイザーによるきめ細かな指導を徹底しており、確かな研究能力の養成に取り組んでいます。

Courses

「研究演習」を履修する 修士論文コース

出願時に提出した研究計画書に基づき、指導教員(研究演習担当教員)から「研究演習」を通じて研究指導を受けながら研究計画を立て、先行研究などの必須文献を通して知識を深めながら自律的に研究を進め、修士論文の作成に取り組みます。修士論文は学術的、理論的色彩の強い内容、もしくは調査分析をもとにした実証的な内容が求められます。

「課題研究」を履修する 課題研究コース

出願時に提出した研究計画書に基づき、入学後に指導教員、サブ・アドバイザーによるアドバイザー・コミッティが結成されます。このアドバイザー・コミッティとの年2回の相談会と個別相談により、各自が独自の課題について研究計画を立て、課題研究論文作成に取り組みます。課題研究論文はフィールド・ワークなど実践的、実学的な内容に加え、修士論文と同等レベルの内容が求められます。なお、課題研究コースは、言語科学、言語教育学に設置されています。授業は夜間に大阪梅田キャンパスを中心に履修して修了することができます。

両大学の修士号が取得できる スターリング大学 ダブルディグリーコース

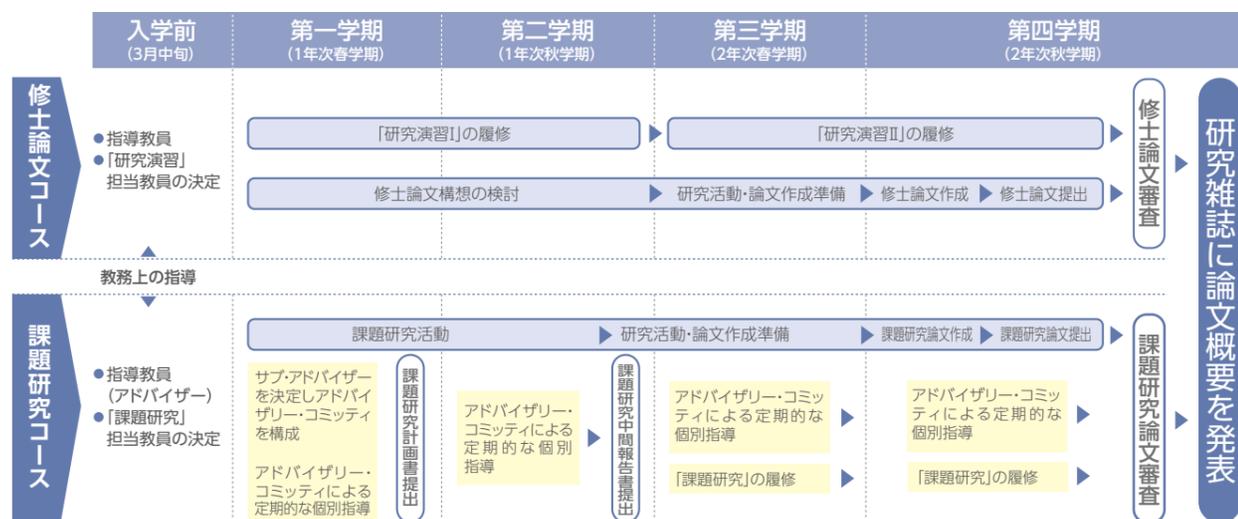
出願時に提出した研究計画書に基づき、入学後に指導教員(研究演習担当教員)から「研究演習」を通じて研究指導を受けながら研究を進めていきます。1年次春学期に開学で「研究演習I」を履修し、秋学期からはスターリング大学で「研究演習I」、「研究演習II」相当科目を履修し、修士論文の作成に取り組みます。修士論文は学術的、理論的色彩の強い内容や調査をもとにした実証的な内容が求められます。

英語教育の実務家としてスキルアップを図る 英語教員対象 1年制修士学位コース

出願時に提出した研究計画に基づき、指導教員(研究演習担当教員)、サブ・アドバイザー2名によりアドバイザー・コミッティを結成し、年2回の相談会と研究演習を通じて課題研究論文を作成します。課題研究論文を選択しない場合は、口頭による英語でのプレゼンテーションによって修士学位に相当する専門分野の知識や技能があるかを審査します。研究テーマについても実証的な内容に限らず、教育実践に焦点を当て、教材研究、授業研究など幅広く研究テーマを選択することができます。

アドバイザー・コミッティ 課題研究コース、英語教員対象1年制修士学位コース生に対して、指導教員1名とサブ・アドバイザー2名の計3名でアドバイザー・コミッティを構成し、学生の研究活動をサポートします。修了までの毎学期、アドバイザー・コミッティ相談会が実施され、コミッティのメンバーと各自の研究計画や進捗状況について相談するほか、相談会以外でもe-mail等を活用した研究指導を受けることが可能です。

■ 前期課程(2年間)の流れ



※ダブルディグリーコースはP4参照。

個人指導、集団指導で 手厚くサポート

本研究科は、言語教育、異文化理解、第二言語習得、心理言語学、対照言語学、社会言語学、会話分析など、言語と文化が深く関わりあう領域を専門とする研究者を輩出しています。後期課程では、指導教員が実施する個人指導の「個別研究指導」と、指導教員を含む3名の教員によって構成されるアドバイザー・コミッティが実施する集団指導の「リサーチセミナー」の2つによる研究指導が行われます。

Courses

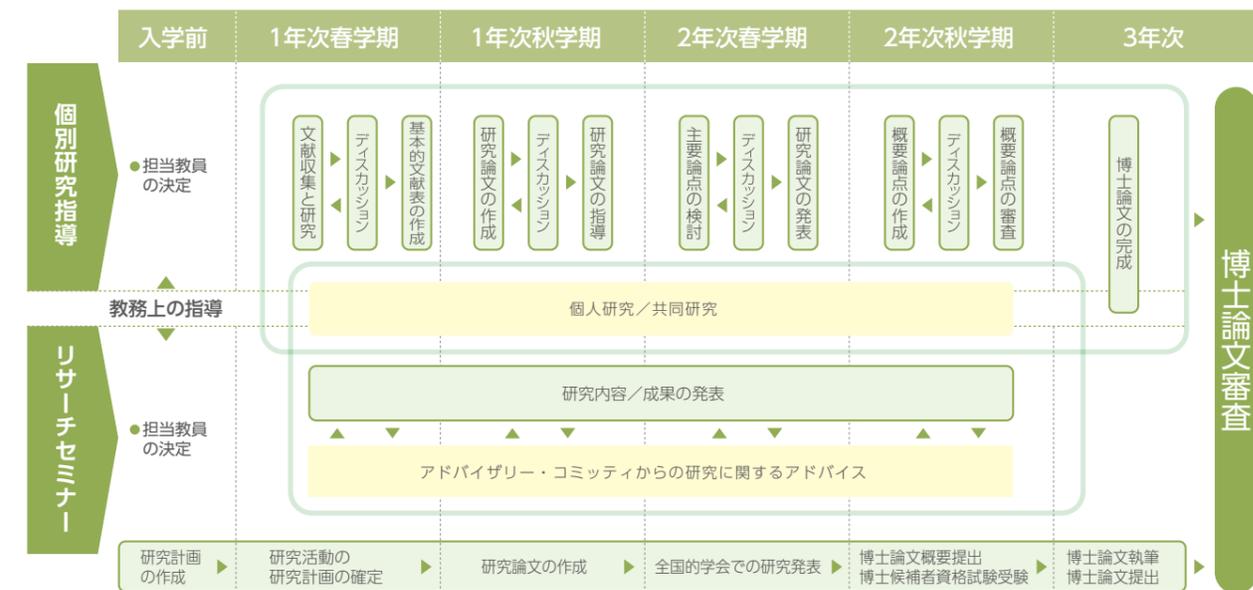
個別研究指導

指導教員による研究演習です。学生による研究の経過報告と指導教員によるコメントや助言を中心に、週に1回、3年間にわたって指導し、博士論文の作成を進めます。専門的な研究指導を行うとともに、課程修了後、言語コミュニケーション文化の専門研究者として立ち立つために、文献・資料の収集方法、論文作成方法などの技術的側面の指導から研究に対する姿勢まで全般にわたって指導します。

リサーチセミナー

集団指導体制によって実施されるセミナーです。言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学の4領域を統合した言語コミュニケーション文化の観点から横断的、総合的に各自の研究を推進し、課程修了後、研究者として自立して研究を遂行していく能力を身に付けることを目標とします。セミナーは、指導教員を含む3名の教員からなるアドバイザー・コミッティが担当し、毎月1回、学生による研究内容の報告を中心に行われます。なお、本セミナーは研究科内で原則として公開とし、アドバイザー・コミッティ以外の他の研究科教員及び院生にも開かれています。

■ 後期課程(3年間)の流れ



※博士課程後期課程の必要修得単位数は12単位とし、個別研究指導12単位およびリサーチセミナー6セメスター分の履修を必修とする。

人が言語を駆使する仕組みを 多角的に追究

言語科学領域



ことばを科学的視点から分析し、 言語の実態を明らかにする

言語構造、言語コミュニケーションを有効に成り立たせる条件、人間が言語をどのように駆使するかなどを科学的に解明します。研究分野としては、音声学、音韻論、統語論、意味論といった言語科学の基礎を成す分野や、文と文脈との関連性を考える語用論、生得的な言語獲得能力と外国語習得との関わりを研究する言語習得論、言語と社会との関わりを研究する社会言語学、言語と心理との関係を研究する

心理言語学、言語使用の実態研究を行うコーパス言語学、言語表現論など、言語コミュニケーション能力の解明に関する分野があります。後者は言語教育や文化に関する研究とも関係しています。基礎分野を概観する講義で言語を科学的な分析の対象にすることを学び、さらに各論の講義において、その分野での研究方法を身につけることができるようになっています。

クローズアップ講義

◆音声学

言語の音声面における規則や現象に焦点を当てます。講座の後半では音韻論(音体系中の規則を明らかにする分野)も扱います。研究対象言語は主に日本語と英語ですが、音声学の範囲は大変広いので、外国語教育に役立つ調音音声学を主に取り扱います。

◆対照言語学

まったく系統の異なる日本語と英語について、言語そのものはもちろん、文化や発想などにも踏み込んで、両言語の体系を対比します。生成文法、機能文法、言語類型論などの観点からの研究成果を参照しつつ、片方の言語を分析するだけでは分からない両言語の特徴を明らかにします。

◆心理言語学

認知心理学や生理心理学で使われている実験方法から得られるデータに基づいて、言語の理解や発話生産の過程及び言語の獲得・喪失のしくみを明らかにする学問分野です。母語話者だけでなく、第二言語の学習者についての研究も扱っています。

◆コーパス言語学

コーパス言語学とは何か、そして、英語のコーパスを使った実際の研究方法について学びます。コーパスの基礎的理論を理解したうえで、コーパスをどのように言語研究や辞書編纂に活かしていくことができるか検討していきます。

■ 修士論文・課題研究論文テーマ(抜粋)

- On the Licensing of Negative Polarity Items in the Complement of Inherently Negative Verbs
- 日本語かき混ぜ文におけるフィラーギャップ依存関係の処理過程 一事象関連電位を指標として
- 聾学校におけるろう児と教師の関係性についての社会言語学的研究
- Adjectival Comparison with Less: A Corpus-Based Semantic Approach
- Revival and Revitalization of Minority Language: The Case of Chamorro in Guam
- Aspect Markers in Kochi Japanese in Comparison with Tokyo Japanese and English: Their Syntax and Semantics

Message from Students

念願だった国際学会での発表もでき、
人と環境に恵まれた充実の2年間でした。

中野先生の指導の下、ネイティブと非ネイティブの学習者における英文処理の差について研究し、中でも英語の受け身文において文法的に間違っただけで非文と誤認してしまう現象について修士論文にまとめました。第二言語学習者が弱い部分を明らかにすることで、英語学習に役立てるのが狙いです。その研究成果を国際学会で発表することができ、残念ながらオンラインでの参加となりましたが、進学前からの念願が叶えられました。本研究科の魅力は、社会人経験者や留学生など多種多様な背景の人々が集まっているところです。私は一般企業への就職を考えていたため、研究だけでなく、社会や仕事の話がたくさんできたことは今後の大きな糧となりました。また、大学院棟の共同作業スペースや図書館の院生のみが使える個室などがあり、充実した環境で研究に打ち込めた2年間でした。



新井 大智
前期課程 修士論文コース 2023年3月修了



言語学と基礎からしっかり向き合え、
英語教員への自信ができました。

大学の教職課程で、バイリンガルや帰国子女など英語を感覚的に身につけている人たちの英語力の違いを痛感。その差は知識で埋めるしかないと考え、言語学を専門的に学べる本研究科への進学を決意しました。修士論文では、統語論と意味論の観点から、標準語そして英語と比較しながら高知方言の文法を研究。私の出身である高知方言には標準語にない「完了形」が存在し、高知方言のアスペクトを分析することで今後の英語教育に活かしたいと考えたからです。本研究科の最大の魅力は、先生方がとても親身に接して下さること。教授と院生という堅苦しい関係ではなく、真剣かつ和気藹々とディスカッションした思い出ばかりがたくさん残っています。今春から、高校で英語教員として働きます。自身の研究から方言を英語教育に活かす方法を提案し、授業で実践していきたいです。



近藤 真由
前期課程 修士論文コース 2022年3月修了

英語圏、フランス語圏、ドイツ語圏、中国語圏など
さまざまな言語と文化を研究

言語文化学領域



境界線を越える
～多言語・多文化社会への学際的アプローチ～

多言語・多文化社会を積極的に理解し、異文化理解の視点からグローバルに行動できる人材を養成します。「比較文化学」「異文化理解」などの科目は言語や文化の境界線を越えようとする科学です。各プログラムの特徴ですが、まず「地域文化研究プログラム」はヨーロッパ、北米、日本を含む東アジア地域の言語や文化にかかわる基礎研究を踏まえて、

言語と文化の問題をさまざまな角度から扱います。「多言語多文化学際プログラム」は境界線を越えた言語・文化事象に関わる多彩な問題を扱います。また「映像演劇文化プログラム」は、映画・演劇という文字テキストの枠を超えた表象文化に関わる問題群を扱います。

クローズアップ講義

◆日本文化

近年、「日本的なもの」を他国の文化から差別化し、再評価する動きが日本国内にあります。和食、富士山、桜など。この講義では「日本的なもの」という表象の起源をさぐると共に、それを徹底して「外から」相対化することをめざします。

◆言語文化学

4人の教員によるオムニバス形式の授業。英米文化・文学におけるモダニズムおよびポスト・モダニズム期に焦点をあて言語文化の多様性と歴史を学ぶと同時に、人文科学研究の在り方そのものも批判的に考えます。「言語文化」を研究するとは？ぜひ一緒に考えましょう。

◆多言語主義・多文化共生

人の移動が激しくなり、社会は多文化・多言語化しています。その現象を、シティズンシップ教育、海外と国内の日本語教育、ヨーロッパの言語政策、ヘイトスピーチ、猪飼野の民族関係、日本の多言語化などを題材にして質的に考察します。

◆映画学

映画学Aではアメリカ、映画学Bではアジアを軸に、映画／映像の分析を通じて、文化を多面的に理解することを目指します。テキストとコンテキスト(文化的・社会的・歴史的な文脈)を意識し、クロスメディア研究から見えてくる複雑な文化体系を学問しましょう。

■ 修士論文テーマ(抜粋)

- 日本の安楽死議論における「家族」が果たす役割ー日本思想と西欧思想の比較検討を中心にー
- ウィメン・オン・ザ・ロードー『テルマ&ルイズ』におけるジェンダーとジャンルー
- 清末民初の劇場の変遷と上海社会ー「上海戯園変遷志」を中心にー
- ベトナム戦争映画のモチーフと二重化ー『地獄の黙示録』におけるウィラードの揺らぎについてー
- 英語教科書における異文化理解題材の分析
- カナダ在住国際結婚の日本人女性達のライフストーリー

Message from Students

多様な考え方を受容する姿勢と英語力で、世界の様々な方々の役に立ちたい。

大学時代に海外へ行った際に感じた文化や価値観の違いを深く学びたいと思い、本研究科に進学しました。研究テーマは、「日本の安楽死議論における家族が果たす役割ー西洋思想と日本思想の比較検討を中心にー」。国内で安楽死について法制化が進まない理由を考えた時、個人主義の西洋に対して、日本は世間が中心にあり、家族も含めて周りとの調和の中で自分の死を考えると違いに注目しました。本研究科では、年齢や国籍の違いなど様々なバックグラウンドを持つ学生や先生と交流することができ、自分の知らなかった考え方や物事の見方を吸収できました。早期入社制度を利用し、この2月から国際線旅客グランドスタッフの仕事をしています。将来的には客室乗務員も目指しており、身につけた多角的な視点と英語力を生かし、空港で、機内で様々な国籍の方のお役に立ちたいと考えています。



上田 茉弥
前期課程 修士論文コース 2023年3月修了

「好き」を追求し続けた2年間は、これからの人生において大きな財産です。

修士論文では、是枝裕和監督作品の二重性について研究しました。是枝監督は、映画監督の前にテレビのドキュメンタリー番組のディレクターとしてキャリアを積んでおり、彼のフィクション映画の中には、あらゆる点でノンフィクションが混在しています。そのノンフィクションは、作品のテーマだけではなく、撮影技法やショットからも表れており、ショット分析などを通して考察していきました。これまでは映画やドラマのストーリーを追って楽しんでいましたが、今は編集や技法にも注目しながら作品の意図を汲み取ろうと考える習慣がつかまりました。これは、この研究をしていなければ、絶対に得られなかった視点だと思います。卒業後はIT企業へ就職するので、自身の研究が直接生かせる機会は少ないと思いますが、この2年間は今後の人生をきっと豊かになるものにしてけると確信しています。



渡辺 優
前期課程 修士論文コース2024年3月修了



学際的、実証的に 言語教育を探究

言語教育学領域



言語教育の変容に 柔軟に対応できる確かな教育力を養成

今、外国語の学習・習得研究が脚光を浴びています。なぜでしょうか。これまで言語教育学の主な目的は、その研究成果を教室での教授法に応用することでした。しかしそれだけでなく、外国語の習得(acquisition)という「窓」から、言語習得という「知的いとなみ」、さらには人の「こころの仕組み」を調べる…そんな領域へと変貌したからです。言語の習得や教育の基本を扱う言語教育学、第二言語習

得、早期英語教育理論などから、中高生に英語を教える実践を学ぶ英語教育実践、教育評価や、小学校での外国語活動のための小学校英語教育実践まで、言語教育学の全領域をサポートします。現代の言語教育学の潮流へと、しっかりとしたチャート(海図)をもって、皆さんをご案内します。

クローズアップ講義

◆第二言語習得

外国語の学習・教育実践に応用できる言語学習理論について深く学べる科目です。心理言語学、応用言語学、神経科学などの知見に基づき第二言語習得を可能にしている「こころの仕組み」について探究します。

◆小学校英語教育実践

2020年度から「外国語活動」の開始が小学校中学年に引き下げられ、高学年には教科としての「外国語」が導入されました。「聞くこと」「話すこと」を中心に外国語に慣れ親しむ「外国語活動」、「読むこと」「書くこと」も含め総合的に学ぶ「外国語」、それぞれの指導計画、教材研究、評価の在り方などについて学びます。

◆言語教育政策

言語政策を教育の視点からマクロに議論します。文部科学省、教育委員会、学校は公的な制度です。教科書検定、常用漢字、ヨーロッパ言語共通参照枠、識字教育、日本語教育推進法なども言語教育政策の話題です。

◆教育評価

授業ではいろいろなテストが実施されます。しかし、それらのテストは生徒の外国語能力や授業で教えたことを適切に測れているのでしょうか。この科目では、「測ること」の基礎と、評価への応用の方法について学びます。

■ 修士論文テーマ(抜粋)

- Effective Vocabulary Learning for Japanese High School EFL Learners: Prefix Mnemonics
- Intergenerational Transitions of English Education: Toward the Acquisition of Linguistic Capital
- Japanese Students' Communication Strategies During Their ELF Experiences in the U.K.
- 生徒の自主的発話が促されるときの集中の持続が難しい生徒のインタラクションからー
- Applying the Keyword Method to Learning English Idioms: Considerations for Native Japanese Speakers
- Differences in the Degree of Gender Stereotypical Beliefs and Motivation towards EFL Learning among Male and Female Students in the Japanese Context

Message from Students

日本人に合った授業方法を模索し、
英語をもっと楽しく学べるように。

大学では心理学を専攻しながら、英語の教員免許の取得を目指していましたが、教育実習に行った際に自分の指導力のなさや言語教育の知識不足を痛感しました。そこで、どのような授業を作れば効果的で楽しく英語を学習することができるのかを学びたいと思い、本研究科へ進学しました。大高先生のゼミで、日本人が英語のスピーキングを習得する際に流暢性を阻害するのはどのような要因かを研究しました。ゼミはマンツーマンでしたが、周囲には英語の先生を目指す人や現職の先生方が多くいらっしゃいました。それぞれの立場で意見交換をすることで新たな発見があり、授業の理解がさらに深まりました。また、本研究科は英語での専門授業が豊富なので、英語力も着実に伸ばせたと実感しています。将来は、研究内容で解明した日本人学習者の苦手分野を理解した上で、最適な授業プランを作りたいです。



寺川 彩華
前期課程 修士論文コース 2024年3月修了

2年間で学んだ専門知識を生かして、
みんなが楽しく学べる魅力的な授業がしたい。

大学時代に教育実習に参加し、英語教員として働くうえでの知識と技量不足を痛感。自らの英語力を高めつつ、英語教育の専門性を高めたいと考え、本研究科に進学しました。私が修士論文で取り組んだのは、英語でライティングした文章を別の生徒からフィードバックを受ける「ピア・フィードバック」と、自ら見直す「セルフエディティング」の効果の比較についてです。近年、注目を集めている協働的な学びをどのようにすれば実践できるのかを研究しました。本研究科の魅力は、少人数なので先生方が寄り添った指導をしてくださること。ゼミはとてもアットホームな雰囲気で、先生や他のゼミ生との活発なディスカッションが繰り返されます。卒業後は、中学校で英語教員として働きます。ここでの学びを生かし、英語を学ぶことの楽しさを実感してもらえる魅力的な授業を作りたいです。



櫻井 稚子
前期課程 修士論文コース 2024年3月修了



外国語・第二言語としての 日本語教育の実践者を育成

日本語教育学領域



多くの修了生が日本語教育の 専門知識を活かして国内・海外で活躍

日本語教育を通じて地域社会・国際社会へ貢献できる人材輩出を目指します。それに関わる言語・文化・教育学の内容であればいずれもここで研究することができます。たとえば、音声学や語彙・文法の研究、日本語と他言語の対照、言語習得論、教授法と教材開発、コミュニケーション論、談話分析、社会言語学、心理言語学、言語教育政策、日本文学・文化論、メディアとカルチャーなどが挙げられます。

また、多様化する日本語教育のニーズに合わせた実践授業に加え、現職日本語教師のリカレント教育も行います。各分野の専門家である指導教員が温かく指導に当たっており、満足のいく研究ができます。修了生は、国内外の大学教員、日本語学校や中高の教員、会社員などとして幅広く活躍しています。

クローズアップ講義

◆日本語教育実践

日本語学習者向け教材の分析、教案作成、模擬授業などを行いながら、日本語を教えるために必要な知識やスキルを身につけるための科目です。授業活動を通じて、問題解決の方法や効果的な指導法などを各自の実践をもとに考えます。

◆日本語会話分析法

対人コミュニケーションのプロセスを分析するためのツールとして社会学の分野で確立された「会話分析」(Conversation Analysis)の方法論について学びます。会話分析の理論的背景や基本的な考え方を押さえたあと、日常会話の構造を分析するためのさまざまな切り口を紹介し、各自が収集した具体的な会話データを分析できる素地を養成します。

◆日本語語彙・文法教育

日本語非母語話者を対象とする日本語教育を円滑に行うためには、日本語の語彙や文法の知識が必要です。この授業は、日本語非母語話者への日本語教育に必要な語彙や文法の基礎知識を学ぶことを目的としています。

◆日本語フィールド調査法

この授業では、多文化間コミュニケーションにおける「共通語としての日本語」をテーマとしたフィールド・ワーク調査を実施します。調査の全ての段階(企画・実施・データ分析)を共同で行い、社会言語学的観点からの言語/コミュニケーション研究の様々な調査/分析方法を紹介、検討、そして応用することが主な目的です。

■ 修士論文テーマ(抜粋)

- 日本語教育における文学教材の可能性
- 相互文化理解を目指した授業づくりに関する一考察— 自他表象のディスコースに注目して—
- 初対面における日韓ほめについての対照研究— 会話分析によるアプローチ—
- 言語間音韻類似性の単語認知に与える影響— 中国語を母語とする上級日本語学習者の単語漢字に対する語彙性判断時間を指標として—
- 日本語目的語残存受身文における目的語の機能について— 中国語の「保留宾语被动句」との対照の視点から
- 2010年以降の中国における日本映画の受容

Message from Students

日本語教育の知識を経験に変え、
理解しやすく楽しく学べる授業を作りたい。

大学時代にカナダ東部へ留学した際に、現地で日本語を勉強している大学生と出会いました。日本から遠く離れた小さな町に、日本文化に興味を抱き学んでいる人がいることに驚きとうれしさを感じ、日本語教師を目指そうと思いました。そのためには、言語教育に関する専門的な知識を学びたいと、本研科へ進学。修士論文では「上から目線」をテーマに、日本語母語話者の用例を対象に人間関係などから分析を行い、どのような場面でのような行為や発話を行うと「上から目線」として捉えられるのかを研究してきました。修了後は、中国湖南省の大学で日本語教師として働きます。この2年間、授業の組み立てなど教えるための知識はしっかり身につけることができました。今後はそれを実践しながら、新たに出てくる疑問について研究し、学習者が理解しやすく楽しい教え方を見つけ出したいです。



魚澄 真穂
前期課程 修士論文コース2023年3月修了



自身の学びから得た気付きや経験を、
より多くの日本語学習者と共有したい。

中国での大学時代、日本語に興味を持ち独学で学び始め、その過程で得た気付きや経験を他の日本語学習者に役立てたいと考えようになりました。そのためには日本語教育に関する専門知識を身につけようとして留学を決意。進学先を探る中で本研科にたどり着きました。修士論文では、会話分析の手法を用いて日常会話における「わからない」という発話について研究を行いました。従来の研究では、「わからない」は主にマイナスの知識状態を主張するトークンとして扱われてきましたが、私はそれとともに聞き手からの援助を引き出すという働きがあることを明らかにしました。卒業後は、中国の高校で日本語教師となる予定です。2年間で学んだ日本語教育の知識と技術を教壇で生かしたいと考えており、生徒の成績を上げるのではなく、楽しみながら日本語能力を高められる授業をするのが目標です。



郭 浩然
修士論文コース 2024年3月修了



カリキュラムと修了要件 (前期課程)

科目区分		言語コミュニケーション能力養成科目		領域研究科目		実習科目	演習科目		修了必要 単位数										
授業科目の名称(単位数)		<基礎科目> 言語コミュニケーション文化特論(2) 異文化コミュニケーション論(2) スピーチ・コミュニケーション論(2) ことばと文化(2) 英語と文化(2)		<運用能力養成科目> [英語科目] 英語インテンシブ・リスニング(2) 英語オーラル・プレゼンテーション(2) 英語ディベート(2) 英語エクスプレッション・ライティング(2) 英語アカデミック・ライティングA(2) 英語アカデミック・ライティングB(2) [フランス語科目] フランス語論文作成(2) フランス語読解(2) フランス語コミュニケーション(2) [ドイツ語科目] ドイツ語論文作成(2) ドイツ語読解(2) ドイツ語コミュニケーション(2) [中国語科目] 中国語論文作成(2) 中国語読解(2) 中国語コミュニケーション(2)		<言語科学領域> 言語科学(2) 言語意味論(2) 言語語用論(2) 社会言語学(2) バイリンガリズム(2) 音声科学(2) 言語表現論(2) 辞書学(2) 心理言語学(2) 言語習得論(2) 言語構造論(2) 対照言語学(2) コーパス言語学(2) 言語障害学(2) 言語変異・変化論(2)		<言語文化学領域> 言語文化学(2) 比較文化学(2) 異文化理解(2) 思想と文化(2) 批評と文化(2) 多言語主義・多文化共生(2) 演劇学A(2) 演劇学B(2) 映画学A(2) 映画学B(2) 日本文化A(2) 日本文化B(2) 英語圏文化(アメリカ)A(2) 英語圏文化(アメリカ)B(2) 英語圏文化(イギリス)A(2) 英語圏文化(イギリス)B(2) フランス語圏文化A(2) フランス語圏文化B(2) ドイツ語圏文化A(2) ドイツ語圏文化B(2) 中国語圏文化A(2) 中国語圏文化B(2)		<言語教育学領域> 言語教育学(2) カリキュラムデザイン(2) 教育評価(2) 英語教育教材研究(2) 英語教育実践(2) 言語教育政策(2) 第二言語習得(2) 授業分析(2) 小学校英語教育実践(2) 英語教授法実践(2)【注1】 言語学習心理学(2) 英語教育法(2) 早期英語教育理論(2) 言語教育と社会(2) 言語教育研究法A(2) 言語教育研究法B(2)		<日本語教育学領域> 日本語教育学概論(2) 日本語語彙・文法教育(2) 日本語会話分析法(2) 日本語と中国語の翻訳研究(2) 日本語音声教育(2) 言語習得と日本語教育(2) 日本語フィールド調査法(2) 日本語と英語の翻訳研究(2) 日本語文字・表記教育(2) 言語社会と日本語教育(2) 日本語教育トピックス(2)		日本語教育実践I(3)【注2】 日本語教育実践II(3)【注2】	研究演習I(2)	研究演習II(2)	課題研究(2)	30単位	
修士論文コース	言語科学領域	言語科学プログラム	2単位	・英語科目 ・ドイツ語科目 ・フランス語科目 ・中国語科目	}の中から6単位	14単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位	—	30単位							
	言語教育学領域	言語教育学プログラム				}の中から6単位	14単位	(各語圏文化の2単位とそれ以外の言語文化学の領域研究科目2単位を含む)	—	4単位	4単位		—						
	言語文化学領域	地域文化研究プログラム					}の中から2単位	18単位	(多言語主義・多文化共生の2単位とそれ以外の言語文化学の領域研究科目2単位を含む)	—	4単位		4単位	—					
		映像演劇文化プログラム						18単位	(演劇学A・B、映画学A・Bの中からの2単位とそれ以外の言語文化学の領域研究科目2単位を含む)	—	4単位		4単位	—					
	日本語教育学領域	プロフェッショナルプログラム					— (履修は可)	16単位	(日本語教育学の領域研究科目10単位を含む)	6単位	—		4単位	4単位	—				
		アカデミックプログラム				22単位		(日本語教育学の領域研究科目8単位を含む)	—	—	—		—						
日本学ダブルディグリープログラム		22単位	(日本語教育学の領域研究科目8単位を含む)	—	—	—		—											
課題研究コース	言語科学領域	言語科学プログラム	2単位	・英語科目 ・ドイツ語科目 ・フランス語科目 ・中国語科目	}の中から8単位	16単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	—	—	4単位	30単位							
	言語教育学領域	言語教育学プログラム																	
ダブルディグリーコース スターリング大学	言語科学領域	言語科学プログラム	2単位	英語科目の中から4単位(1年春学期に履修)	16単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位	—	30単位								
												IELTS6.5以上 に相当する者							
	言語教育学領域	言語教育学プログラム										IELTS6.5以上 に相当する者	英語科目の中から4単位(1年春学期に履修)	16単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位	—
言語教育学領域	言語教育学プログラム	IELTS6.5以上 に相当する者	英語科目の中から4単位(1年春学期に履修)	16単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位	—										
										IELTS6.5未満に 相当する者	英語インテンシブ・リスニング 英語オーラル・プレゼンテーション 英語アカデミック・ライティング	6単位必修 (1年春学期に履修)	14単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位	—	
学位コース 英年制修士	言語教育学領域	言語教育学プログラム	2単位	—	24単位	(英語教授法実践2単位とそれ以外の言語教育学プログラムの領域研究科目18単位を含む)	—	4単位	—	—	30単位								

【注1】 英語教授法実践は、英語教員対象1年制修士学位コース学生以外は履修不可。
 【注2】 日本語教育実践I・IIは日本語教育学(プロフェッショナル)プログラムの学生以外は履修不可。
 【注3】 「演劇学」、「映画学」、「日本文化」、「英語圏文化(アメリカ)」、「英語圏文化(イギリス)」、「フランス語圏文化」、「ドイツ語圏文化」、「中国語圏文化」、それぞれA・Bともに隔年開講する。
 (A・Bあわせて、4学期間に2回開講する。)
 ※ 領域研究科目の開講原則-4学期間に最2回(言語科学と言語教育学は昼と夜を各1回)開講する。
 ※ 修了要件の一つ(専門外国語学力の認定)として「運用能力養成科目」2科目の修得あるいは、研究科が定める外部試験において、一定以上のスコアが必要である(外国人留学生の専門外国語学力認定については別途定める)。

修了生からのメッセージ

It Always Seems Impossible Until It's Done

このタイトルは、Nelson Mandelaの名言ですが、まさに私の言コミの経験を表していると言えます。主宰する英語教室での指導を通じ第二言語習得への疑問が生まれ、大学院進学を決意しました。大学とは縁遠い日々を送っていた私には、大学院入学自体、不可能に思えましたが、言コミがその願いを叶えてくれました。入学後は、不可能と思われた前期課程の学びと平行して、中高教職(一種)免許未取得からの専修免許取得も、先生方の深いご理解と手厚いご指導のおかげで実現し、更に、後期課程、博士学位取得と入学前は想像していなかったことが現実となりました。今後は、Mastery for Serviceを胸に、不可能かもしれませんが、言コミへの返返しとして、研究で社会に貢献したいと思っています。



西村 浩子

2017年3月 前期課程修了
修士論文コース(言語教育学)
2022年3月 後期課程修了
周南公立大学 講師

研究に専念できるのは一番幸せなことだ

「研究に専念できるのは一番幸せなことだ」と指導教員の先生がよく仰っていましたが、卒業後の私も痛切に実感しています。言コミでの研究生活はゼミやリサーチセミナー、学会、投稿論文に毎日追われていて、「本や論文を読む時間が足りない」「発表の用意がまだできていない」「論理的な文章は書けない」といった悩みばかりでした。しかし、悩んだからこそ、今の自分に成長できました。言コミで培ったことを今の職場でも活用していきたいと思っています。とはいえ、様々な仕事に追われ、純粋に研究だけを悩めなくなった今では、研究に専念できる言コミでの研究生活を懐かしく思います。



李 坤

2018年3月 前期課程修了
修士論文コース(日本語教育)
2022年9月 後期課程修了
浙江師範大学
日本語学科専任講師

Bonjour. C'est ma vie!

私は学生時代から興味があった言語や文化について学びたいと思い定年退職を機に言コミへ入学しました。修士論文ではグローバル人材の生き方を多様な言語や文化的背景からなる組織経営を海外で経験された方へのインタビューを通して研究することができ、修了後はフランスのブルゴーニュ大学に留学し欧州における多言語多文化組織経営を学ぶ機会を得ることができました。留学の準備を進めながらフランス語を履修する機会を与えていただけことも幸運でした。現在は、これまでに学んだことを整理して多言語多文化共生について理解を深めるための入門的な手引書の編成に取り組んでいます。今日、企業経営に於けるダイバーシティの必要性が問われていますが、将来少しでも理解の一助になればと思っています。



鈴木 恵三

2017年3月 前期課程修了
修士論文コース(言語文化学)

言コミで学んだ研究との関わり方

言コミで学んだことは「自分の研究との関わり方」です。言語教育学プログラムでは英語をテーマとした研究が多いですが、英語以外の言語でも、ベースとなる研究デザインや研究倫理、データの扱い方をしっかり身に着けることができます。言語面は関連学会で補う決心をしたら、自然と学会活動もできました。指導教員の先生はどんな研究テーマでも、親身に話を聞いてくださりました。個別研究指導では研究の進捗、先行研究、研究デザインなど、詳細について先生と検討し、リサーチセミナーでは先輩や同期の研究内容を聞くことで、他の分野についても学びつつ、自分の好きなテーマで研究することができました。言コミで教わった研究手法を土台として、これからも続けたいと思います。



崔 銀景

2014年3月 前期課程修了
修士論文コース(言語科学)
2020年9月 後期課程修了
鎮西学院大学
現代社会学部 外国語学科
専任講師

■ 本研究科修了生の進路状況

本研究科入学者には、大学学部を卒業してすぐに入学する人、仕事を続けながら入学する人、仕事をやめて入学する人、休職して入学する人などがあります。結果として、入学者の職種や年齢構成も幅広く多岐にわたるため、多様なバックグラウンドをもった学生の集まりとなっています。また、関西学院大学以外の大学卒業者が多いのも大きな特徴です。本研究科前期課程修了生の進路は、就職が一番多く、その他本研究科後期課程や他の大学院に進学する人もいます。修了生のうち、就職者(前職への復職・現職の継続を含む)は51.4%、そのうち学校関係(中学、高校、短期大学、大学、専門学校などの言語教育担当教員)への就職が59.3%となっています。学校関係(教員)への就職者が多いことが特徴です。

修了生の進路状況

(2003年3月～2024年3月修了)

修了生	就職者 (251名 51.4%)	(内訳)		進学者 (78名 15.9%)	その他 (159名 32.6%)
		教員 (147名)	教員以外 (104名)		
488名	251名 (51.4%)	147名	104名	78名 (15.9%)	159名 (32.6%)

就職者のうち59.3%が教員として就職(前職への復職・現職の継続を含む)

■ 主な就職先一覧

日本電気、京セラ、伊藤忠商事、イーオン、デンソー、読売旅行、エイチ・アイ・エス、ベネッセコーポレーション、ECC外語学院、ヤマハ英語教室、日本電子、大広、プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン、メルリックス、楽天、アンスティチュ・フランセ日本、河合塾、エスシー、日本タタ・コンサルタンシー・サービス、ニトリ、Asian Bridge、エクセディ、小松製作所、フルタニ産業、マルアイ、暁学園、梅村学園、開智中学校・高校、大阪学芸、大阪信愛女学院、大原学園、関西学院、啓明学院、甲南学園、神戸山手学園、此花学院、須磨学園、瀧川学園、仁川学院、睦学園、カナディアン・アカデミー、東北学院大学、近畿大学、サイアム大学、大阪府立大学、大阪教育大学附属池田小学校、大阪教育大学附属天王寺中学校、中国・大連交通大学、兵庫県高校教員(英語)、西宮市中学校教員(英語)、神戸市中学校教員(英語)、大阪府高校教員(英語)、広島県高校教員(英語)、石川県高校教員(英語)、奈良県高校教員(英語)、その他

大学院担当教員 (2024年4月現在)

前 前期課程指導教員
後 後期課程指導教員

教員の研究内容の詳細については、研究科Web http://www.kwansei.ac.jp/g_language/ の「教員一覧」および研究業績データベース <http://www.kwansei.info/src/> を参照

言語文化学

阿部 卓也 教授

ドイツ語現代文学、ペーター・ハントケ、西洋古典音楽の拍節論

現在の中心課題は1750～1900年頃のクラシックの拍節論。いわゆる古楽や現代音楽に関する言説は喧しいが、クラシックのスタンダードとされてきたこの時代にこそ、理論上の重大な欠落があると考えている。

言語科学

言語教育学

石川 圭一 教授

応用言語学、心理言語学、第二言語獲得

ことばの仕組みとその認知メカニズムに関心があります。第二言語の獲得・学習の研究を行っており、特に、新しい文法や語彙を学ぶ際、潜在的な学習と明示的な学習ではどのように異なるのか、得られた知識はどのような性質を持つのか、等について調べています。

言語文化学

伊藤 正範 教授

イギリス文学、モダニズム小説、ジャーナリズム、労働運動、群衆

19世紀末～20世紀初頭のイギリス小説を主な題材に、テキストと当時のイギリス社会・文化との関わりについて研究しています。特にジャーナリズムや労働運動の発展、そして群衆の様態の変遷が、小説というジャンルの成長にどのように関わっていたかという点に注目しています。

言語科学

茨木 正志郎 教授

理論言語学、史的統語論、文法化

言語は時代とともに変化しますが、特に英語はその歴史の中で相当な変化を受けてきた言語で、様々な興味深い現象が観察されます。このような現象に対して、私は生成文法という言語理論を用いて、英語の歴史的变化の要因とメカニズムの解明を試みています。

言語文化学

岩松 正洋 教授

物語理論、小説史、思想史、サブカルチャー研究

小説(とくに非リアルizm小説)を物語論やコミュニケーション論の観点から理論的に研究しています。また哲学や心理学、認知科学の知見に頼りつつ、文学作品の構成・受容を日常の発語行為や聞く行為の延長に置いて分析しています。

日本語教育学

言語科学

于 康 教授

日本語学、日本語と中国語の対照研究、日本語の誤用と日本語習得の研究

主に取り組んでいる研究内容: 日本語の語彙研究と文法研究、語彙や文法を中心とする日本語と中国語の対照研究、中国語母語話者日本語学習者の誤用研究及び習得難易度やバックスライディングに関わる日本語の習得研究。

言語文化学

上田 和彦 教授

フランス思想、フランス革命、プランシヨ、ラクー＝ラバルト

現代思想で問題となる「文学」、「倫理」、「政治」、「宗教」をフランス革命まで遡って考察しています。目下、フランス革命で民主主義が創設される際、なぜ恐怖政治が起こったか考えています。

言語科学

内田 充美 教授

英語コーパス言語学、英語の歴史における言語接触

(現代)英語を対象として、人が言語をどのように用いているのかを研究しています。実際に用いられた言語資料を観察する方法で、科学的に適切な記述をすることを目指します。

言語文化学

大東 和重 教授

日中比較文学、日本近現代文学、中国近現代文学、台湾文学、比較文化論

日本・中国・台湾の文学を、比較文学・文学史研究の手法で研究しています。日露戦後の文学や、郁達夫と大正文学、台南の文学について本をまとめました。外国人の見た日本・中国・台湾についても関心があります。

言語文化学

小笠原 亜衣 教授

モダニズム芸術、身体論、ジェンダー

パリおよびニューヨークにおけるモダニズム芸術運動を中心に間芸術研究、身体論、ジェンダー研究を行っている。ガートルード・スタイン、アーネスト・ヘミングウェイ、ピカソ、ジョージ・アンタイル、ジュン・バーンズ、ジョージア・オキーフ、サダキチ・ハートマン、ジェラルド・マーフィー、エドワード・ホッパー等。

日本語教育学

言語科学

Teja Ostheider 教授

コミュニケーションの社会心理学、共通語としての日本語

言語政策、言語教育、言語権、言語行動、言語意識、アイデンティティ、バリアフリーなど、様々な観点から「マイノリティ」に対するコミュニケーションを研究しています。例えば、「外国人」や「障害者」と呼ばれる人々について調査しています。

言語文化学

言語教育学

柿原 武史 教授

言語政策、言語教育、スペイン語学、少数言語、移民問題

スペイン・ガリシア語をめぐる言語政策、特に教育に関する政策を研究している。政治的論争が子どもの言語教育に与える影響について関心がある。その他のスペイン語圏における言語教育政策、日本における外国語教育政策、外国人の子どもの教育にも興味がある。

言語教育学

ヴァイヴァン ブッシンゲル カバリ
Vivian Bussinger-Khavari 准教授

second language acquisition, heritage language education

Comment My research is mainly divided into two areas: Second Language Acquisition (SLA) and Heritage Language Education (HLE). Within SLA, I focus on the teaching of English as a second or foreign language (ESL/EFL) and within the field of HLE, I study the first language maintenance and second language acquisition of immigrants children.

言語科学

スミヨシ マコト
住吉 誠 教授

現代英語の語法文法、フレイジオロジー、辞書学

Comment 現代英語の言語資料にもとづいて、これまで気づかれていなかった新しい語法、語法の変化、表現の変異などを明らかにし、統語的・意味的観点から英語にひそむ規則性の実証的解明に取り組んでいます。

言語文化学

カワムラ カツシ
河村 克俊 教授

西洋近代哲学、ドイツ啓蒙、自由論、概念史的方法、カント

Comment これまで主に、西洋近代思想史にみられる「自由」について考えてきました。自由は、自律や自発性と同義語とされることがあり、また善悪の問題に関わります。そして自然科学的決定論、運命論、充足根拠律等と矛盾する関係にあります。

言語文化学

ゼンノ ミホ
禪野 美帆 教授

文化人類学、ラテンアメリカ地域研究、現代の先住民

Comment 先住民と呼ばれる人々が、グローバル化した社会環境を利用しながら、自分たちの文化やアイデンティティの独自性を主張あるいは生成するプロセスについて、特にメキシコを中心に、フィールドワークに基づく研究をしています。

言語教育学

クドウ タケ
工藤 多恵 教授

英語教育、協同学習、教材開発

Comment 学習者の自律性を高める教授法やアプローチに関心を持っています。特に習熟度が低く、英語に苦手意識を持つ学習者を対象とした教材開発、アセスメント方法や教授法の考案に取り組んでいます。

言語科学 日本語教育学

タナカ ヒロユキ
田中 裕幸 教授

理論言語学、生成文法、原理・パラメータ理論、統語論

Comment 人間の認知能力を取り扱う科学の一分野としての言語学、特に統語論(文の構成法)を中心に研究を行っています。自然科学の方法で、複雑に見える言語に潜む規則性や普遍性に迫ることができるのがこの分野の醍醐味です。

言語科学 言語教育学

ブランドン クレーマー
Brandon Kramer 准教授

第二言語習得、語彙学習・指導、言語テスト論、量的コーパス分析

Comment My research focuses on vocabulary learning, the development of reading fluency, and the measurement of language learning through quality testing. More recently I have begun work in corpus linguistics, specifically looking at the vocabulary (both single words and multi-word units) which students are most likely to encounter.

言語科学

タニ アキノブ
谷 明信 教授

英語史、語彙論、文体、phraseology、辞書史

Comment 中英語(1100-1500)から初期近代英語(1500-1700)における語彙と文体を研究しています。文体、ジャンルによる、phraseologyを含めた語彙の変化・変異に注目して、調査を行っています。

言語教育学

シキ オサト
氏木 道人 教授

英語教育、音読・シャドーイング、リーディング指導

Comment 英語のリーディングや語彙学習における音読やシャドーイングの効果に関心があります。効果的な指導法を考えるヒントとなる英語教育研究を目指したいと思っています。

言語文化学

タニグチ マキ
谷口 真紀 准教授

ウィリアム・メレル・ヴォーリズ、ミッシヨナリー・アーキテクト、人物史

Comment 近代日本で活躍した「国際人」の手による文献をもとに、その人物が何をしたかだけでなく、どのような人間であろうとしたかを探ってきました。目下、伝道者かつ建築家、ヴォーリズのことばから彼の人生の図面を読み解いています。

言語文化学

シマヌキ カゴコ
島貫 香代子 教授

アメリカ文学・文化、リージョナリズム、人種とエスニシティ

Comment フォークナーが描いた20世紀南部を研究していますが、最近ではホーソンが描いた19世紀ニューイングランド地方にも関心を寄せています。これらの地域を主に人種・民族の観点から考察しています。

言語文化学 言語教育学

チョウ イ
趙 怡 教授

比較文学・比較文化、翻訳文学、中国近現代文学、日本近代文学、上海租界の歴史と文化

Comment 主に20世紀前半のパリ・上海・東京(京都)を舞台に展開された東西文化の交流と衝突について研究しています。とりわけ文化人の異文化体験や、文学作品に描かれた異国風景と異国人形象に注目します。また上海租界の歴史と文化について多言語の史料調査を通して研究を進めています。

言語教育学

スミ セイジロウ
住 政二郎 教授

社会文化的パースペクティブ、CoP、International Baccalaureate

Comment 広義には「人はどこで、どのように言語を学ぶのか」という問いに関心を持っています。そのプロセスに、道具やデザインなどの要素がどのように関わっているのか、創発的なインタラクションに注目しながらCoPを理論フレームに研究をしています。

言語文化学

ツカダ ユキヒロ
塚田 幸光 教授

映画学、表象文化論、クロスメディア、アメリカ文学(ヘミングウェイ、フォークナー、モダニズム/ファシズム)

Comment アメリカを軸とした映像文化の研究をしています。映画、写真、ジャーナル、文学など、網状のテキスト/コンテキストの中で変化する複数の「文化」に対し、クロスメディア的視座からその欲望の性/政治学を考察しています。

言語教育学

テラサワ タクノリ
寺沢 拓敬 准教授

言語社会学、言語政策、英語教育史、言語使用・言語イデオロギーの政治経済的分析、批判的応用言語学

Comment 言語現象(言語使用、言語に対する態度、言語教育)について社会科学的な理論・手法を用いて検討している。主たるフィールドは日本、得意な分析手法は史資料の内容分析および社会統計である。「日本社会と英語」に関する研究が多いが、それ以外の言語現象にも関心がある。

言語教育学

ハセ ナオキ
長谷 尚弥 教授

リーディング指導、アメリカバイリンガル教育、批判的応用言語学

Comment 英語教育、特にリーディング指導に興味を持っている。また、アメリカバイリンガル教育を参考に、言語や言語教育の持つ社会政治的な意味合い(批判的応用言語学)にも関心を持っている。

言語科学 日本語教育学

デン カ
田 禾 教授

対外漢語、現代中国語文法、特定文型の使用条件、日本人学習者の誤用分析

Comment 日本人の中国語学習者を対象とする「対外漢語」の分野で、誤用例を分析しながら、現代中国語の文型及び言葉の使用条件について研究を進めております。中には中国語における類義語と類義表現の分析にも興味を持っております。

日本語教育学

ハセガワ ノリコ
長谷川 哲子 教授

アカデミック・ライティング教育、留学生の作文に関するピリーフ、日本語ライティング教材の開発

Comment 日本語教育が扱う分野の中で、特にライティングの分野に関心を持っています。文章の分かりやすさや書くことに対するピリーフなどが最近関心を持っているテーマです。

言語教育学 言語文化学

ナカガワ シンジ
中川 慎二 教授

異文化間教育、授業分析、談話分析、海外日本人コミュニティ、ドイツ言語教育政策、CEFR、シティズンシップ教育、識字教育

Comment シティズンシップ教育(ドイツでは政治教育)の文脈で、言語学習と市民権について研究しています。人の移動が増えていく中で、共生のための知識とその教育実践が重要です。ドイツ語圏と日本における統合政策と言語教育政策に関して研究しています。

言語教育学 言語文化学

フクチ ナオコ
福地 直子 准教授

カウンセリング心理学・英語教育方法論・異文化間教育

Comment 異文化適応、異文化間能力、多文化共生におけるカウンセリングマインド養成教育に関心を持っています。多文化共生社会に向け、新しい社会教育実践モデルの検討、異文化理解教育の発展などに取り組んでいます。

言語科学 言語教育学 日本語教育学

ナカノ ヨウコ
中野 陽子 教授

心理言語学、第一言語または第二言語としての日本語と英語の形態素処理と文処理

Comment 母語または第二言語としての英語や日本語の語や文が、どのように理解されるのか、あるいは産出されるのか、その仕組みについて、さまざまな実験(行動実験、視線操作法や事象関連電位測定を用いた実験)を行いながら研究しています。

言語文化学

フジノ ナオコ
藤野 真子 教授

中国演劇、劇評論、中国民間芸能、中国近現代文学、上海文化、中国メディア・出版史、異方言文芸

Comment 20世紀上海における、京劇を中心とした伝統演劇の動向分析をテーマとしている。特に、観客のニーズを踏まえた演技・演目・演出の改革、メディアの発達と劇評との関係を中心に研究を行っている。また関連ジャンルとして、同時期の文学、言語等にも目配りしている。

言語文化学 日本語教育学

ニシムラ マサオ
西村 正男 教授

中国近現代文学、中国メディア文化史、中国語圏の映画、日中文化交流、ポピュラー音楽、東アジアレコード文化史

Comment 本来の専門は中国文学ですが、ポピュラー音楽研究や映画研究にも関心を持ち、中国や香港・台湾などの音楽や映画の歴史を調べています。日本との関わりについても関心を持っています。

言語文化学

マサナガ トシカズ
増永 俊一 教授

19世紀アメリカ文学(Antebellum)、アメリカ文化史、ツーリズム、ピューリタニズム、N. ホーソーン

Comment 主として19世紀前半のアメリカ文学・文化が考察対象である。社会的、経済的、政治的コンテクストと、作家固有の言語表現や文学技法といった美学との交差に関心があり、現在は特に19世紀ツーリズムの発展と芸術表現との関連について考察を進めている。

言語科学 言語文化学

ノガミ ヨウコ
野上 陽子 准教授

English as a lingua franca (ELF)、第二言語話者のアイデンティティ、intercultural pragmatics, 質的研究

Comment 第2言語として英語を使用する人のアイデンティティの構築や、話者の語用論的言語使用とアイデンティティの関連性について、共通語としての英語(ELF)を通じた異文化コミュニケーション場面に焦点を当てて研究しています。

言語文化学

マツミヤ ソウコ
松宮 園子 教授

イギリス小説、モダニズム、アダプテーション、表象文化

Comment イギリス小説を研究の中心とし、ウルフやフォースター等のモダニズムの作家から、イシグロ、マキューアン等の現代作家を扱いながら、最近では文学テキスト及びアダプテーション中の芸術表象について考察しています。

言語教育学

ミカミ アキヒロ 三上 明洋 教授

英語教授法、授業研究、アクション・リサーチ、教師教育、教育方法と評価

効果的に英語を教育・学習する方法を探っています。授業を中心に理論と実践をつなぐ研究を目指しています。生涯にわたって学び続ける教師の養成・研修の在り方や評価法(妥当性検証など)についても興味があります。

言語文化学

ミヤハラ カズナリ 宮原 一成 教授

英文学、英連邦現代小説研究、物語時制論

20世紀後半から21世紀の英国・英連邦小説が主な研究対象です。最近では、物語を読むという行為を「贈与」として捉える可能性や、物語を現在時制で書くことの意味について考察しています。

言語科学

言語教育学

ムラカミ ヨウコ 村上 陽子 教授

社会言語学、言語教育、スペイン語学、スペイン語教授法

スペイン話者の言語行動に興味があり、フィールド調査やアンケート調査を通じて、待遇表現、依頼、指示などの言語行動について研究しています。スペイン語教育において、学習方法による学びの変化をアクティブラーニングの視点から考察しています。

言語文化学

モリタ ユリコ 森田 由利子 教授

イギリス小説・文化、ライフ・ライティング、ヴァージニア・ウルフ

イギリス小説・文化研究が専門領域ですが、特に、「ライフ・ライティング(Life-writing)」というジャンルに着目して研究を進めてきました。伝記や自伝、さらには、肖像画や写真、家なども「ライフ・ライティング」であると捉え、考察しています。

日本語教育学

モリモト イクヨ 森本 郁代 教授

会話分析、相互行為分析、コミュニケーション・デザイン

人々が会話をしたり一緒に共同作業をしたりといった、社会生活のさまざまな場面における日常的な活動をどうやって行っているのかを、録音や録画データを基に言語と非言語(体の動きや視線など)の両面から研究しています。

言語科学

言語教育学

ヤマダ カズミ 山田 一美 教授

応用言語学、第二言語習得、普遍文法、L2としての英語・日本語習得、空代名詞、冠詞

第二言語習得(SLA)では、母語の影響、段階的な発達、体系的・多様性、不完全性が観察されています。これらの現象にはどのような説明が可能なのでしょうか？ SLAのメカニズムや習得モデル、また、言語教育への示唆について考察を進めています。

言語教育学

ヨネザキ ミチ 米崎 里 准教授

英語教育学、英語授業研究、英語指導法、諸外国の外国語教育制度と言語政策

英語教師が、日々の授業で英語をどう教えていくか明確な理念を構築するために、理論と実践を組み合わせ、日々の授業実践力の向上や効果的な英語指導法の確立に向けての具体的方略を研究しています。最近では諸外国の外国語教育(特にフィンランド)にも学びながら、研究を進めています。

言語文化学

リ ケンジ 李建志 教授

韓国朝鮮研究、ナショナリズム、在日朝鮮人問題、比較文学、マイノリティ問題、朝鮮王族の研究

朝鮮文学・文化を研究の出発点ですが、現在はその延長線上に、朝鮮最後の王である李垠の評伝を書き続けております。また、韓国で「英雄」とされているテロリストたちについても研究しております。圧倒的弱者は圧倒的強者に立ち向かうとき、テロしかないのは事実です。もちろん、私はテロには批判的ですが、「民族」という枠組みで考えるのではなく、自分の頭で考えることを意識しています。

言語文化学

ハンス ベーター リーダーバハ Hans Peter Liederbach 教授

日本哲学(京都学派)、西洋哲学(近現代)、比較思想(西洋/日本)

和辻哲郎のハイデガー受容が私の研究の発端であった。現在の私の主な関心は、日本哲学、とりわけ京都学派の現代的意義を検討することにある。この際、西田幾多郎と新実在論(new realism)、和辻哲郎とケア倫理、丸鬼周造と他者論などのテーマを研究し、京都学派が現代哲学に貢献できることを掘り出している。

言語科学

ワタナベ タクト 渡辺 拓人 准教授

英語史、英語学、コーパス

近代英語を中心に、実証的な立場から英語の史的变化を研究しています。特に、近接未来を指す表現の発達や類似した意味や機能をもつ表現間の競合について関心を持って取り組んでいます。

言語コミュニケーション能力養成科目担当

アンドリュー ナウラン Andrew Nowlan 言語特別准教授

Collaborative online international learning (COIL), intercultural competences, internationalization, second language acquisition, study abroad

Greetings! In the current knowledge economy, global interconnectedness provides many exciting opportunities to build cross-cultural competences, especially in Japan, where it may be difficult to interact with non-Japanese partners. I try to apply an international dimension to all aspects of the learning process by drawing not only on my personal, professional, and academic experiences, but also those of the students. I look forward to our discussions and collaborations.

授業・研究に対する 充実したサポート体制

01

Semester制と授業開講時間帯

原則として半年開講のSemester制を採用し、昼夜開講のカリキュラムを編成しています。また一般学生、社会人学生の区別なく授業を開講し、課題研究コースでは夜間授業のみの履修でも修了に必要な単位を修得することができます。

03

単位数による学費納入制度

社会人入試で入学した者で、修了まで2年を越える履修計画の場合、履修単位数を基礎とした学費納入方法を選択することが可能です。入学時において決定した学費納入方法については、修了まで変更することはできません。

05

大学図書館

<西宮上ヶ原キャンパス> 蔵書数約150万冊で、西日本有数の規模を誇り、国内外のあらゆるデータベースが活用できます。また、申込制による研究個室も利用できます。

07

交換留学

交換留学は、本学に在籍しながら、協定大学へ1学期間または2学期間(1年)留学できる制度です。本研究科協定先のサンフランシスコ州立大学をはじめ、関西学院大学の協定校への留学が可能です。

08

学生共同研究室

<西宮上ヶ原キャンパス> 大学院棟(1号館)内に、院生専用スペース(延べ86席、パソコン45台設置)があり、夏季および冬季休暇期間以外は23:00まで利用可能です。また、G号館1階に、本研究科院生専用の共同研究室があり、自習や院生の情報交換の場として活用されています。

04

大阪梅田キャンパス (K.G.ハブスクエア大阪)

夜間授業(VI時限・VII時限)は原則として大阪梅田キャンパスで実施します。梅田キャンパスでは、専門職大学院経営戦略研究科の授業を実施している他、学部学生の就職支援活動、各種セミナー、産学連携、研究会活動、同窓会などの活動が行われています。

06

言語コミュニケーション・フォーラム

各学生が研究成果を発表し、各方面の研究者(学会構成員である教員や院生)からコメントや助言を受けることができる場として、毎学期(年2回)開催されます。フォーラムでの発表は、論文や研究成果の方向性を段階的に確認し、他者の視点を加えて論文の質を高めることを目的としています。また、各分野の著名人、専門家の講演等も随時開催され、最新の研究についての情報を吸収することもできます。

09

言語コミュニケーション文化学会

「言語コミュニケーション文化学会」は、本研究科の教員と現役学生および修了者からなる学会組織として、2001年4月1日付にて関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科開設と同時に設置された学会です。この学会の主な活動には、毎年9月と2月に開催される「言語コミュニケーション・フォーラム」と研究雑誌「言語コミュニケーション文化」の発行があり、その他にも言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学に関わる著名な研究者を招いて講演会を実施し、最新の研究についての情報を学会員に提供しています。また、研究雑誌「言語コミュニケーション文化」は、前期課程・後期課程修了者、後期課程満期退学者および在学中の学会員等の研究成果発表の場であり、原則として年1回発行します。

